

薬剤師と獣医療の接点拡大

教育体制整備がカギに

動物病院をめぐるM&Aは、動物病院グループや投資ファンドが主な買い手で、薬局による買収は異例とされる。薬局傘下入りを決めた伊藤太一院長は「薬局や薬剤師を中心とする企業による参入は少なく、連携の可能性に魅力を感じた」と話す。

その上で、「獣医師に集中している業務をいかに他職種へタスクシフト・シェアするか」と課題を指摘。動物病院での薬剤師の可能

薬局や薬学領域で、獣医療をめぐる動きが活発化している。動物病院から処方箋を応需し、飼いに主に薬を届けるペット調剤を手がける薬局が登場する中、新たな動きとして大賀薬局(福岡市)が動物病院をグループ化した。薬学領域では、獣医療の多職種連携を目指し、東京薬科大学薬学部の櫻井浩子教授を代表理事とする日本獣医療薬学協

ペット調剤薬局登場も

ヒト医療では病院から薬局への処方箋受取率(医薬分業率)が8割を超えるのに対し、獣医療は約50年遅れて同様の流れを迎えようとする。ペット調剤に参入する薬局も出ており、大賀薬局もその一つだ。2024年に開始したペット調剤事業は苦戦し、打開策として小郡市内の藤野動物病院の買収に踏み切った。同院は昨年6月にグループ入りし、今年1月に「大賀ベッコリニク」に名称変更した。

愛玩動物看護師が担う業務の一部も含めて対応し、コストに見合う価値を創出できるかがカギになる。薬剤師が動物業界で有用であること示したい」と語る。

薬局・薬剤師も獣医療に熱視線を送る。日本薬剤師会の岩月進会長は、昨年のインタビューで「薬の専門

同プログラムは、新規業務の付加ではなく、既に求められている役割を安全に担うための基盤整備と位置付ける。獣医である櫻井氏は「薬局が獣医療に関わる意義は、動物を直接診ることではなく、飼い主を通じて健康と安全を守る点にある」とし、薬剤師の薬物療法への本格参入には慎重な姿勢を示す。

一方、アカデミア主導で、薬局や動物病院に勤務する薬剤師や薬科大学教員らが参画する研究会も近く開始する。メンバーには、東北医科薬科大学薬学部臨床薬理学教室の金野太亮助教や、昭和薬科大学臨床薬学教育研究センター実践薬学部門の神林謙輔らが名を連ね、ペット調剤の標準化などを検討する方針だ。獣医師の一部には薬剤師

参入を歓迎する向きもあるが、職能を奪われることへの警戒感も強い。農林水産省が推進するチーム獣医療でカギを握るのは23年に国家資格として誕生した愛玩動物看護師で、その数は3万人に上る。

飼養者への服薬指導などでは愛玩動物看護師との協働も視野に入る。ただ、日本愛玩動物看護師会の横田淳子会長は「薬剤師はヒト医療の知識を有しているものの、動物は種ごとに生態が異なる。まず獣医療を学ぶ仕組みの整備が必要ではないか」と述べ、薬剤師を組み合わせる必要があると認識を示した。

獣医療と薬学の接点は広がっている一方、教育体制の整備が薬剤師参入のカギを握りそうだ。

と、医療用と同等まで増量して差し支えないとした。ただ、富永孝治委員(日本薬剤師会常務理事)が「引き上げ量が大幅に増加することを踏まえれば、要指導薬から始めていくのが妥当ではないか」と指摘した。これらの意見などを踏まえ、厚労省が必要な資料を収集した上で、再度部会で意見交換を行うこととなった。

一般用の用量引き上げについては、一般用の経口固形剤として既に承認されているものと分量、用法・用量が対応する医療用より低く設定されていること、一般用の効能・効果が医療用の範囲内に設定されていることが条件となる。

業界団体が候補成分を選定した上でPMDAに提出し、PMDAが該当性を精査して候補を選定するなどの過程を経て、部会に報告する流れとなっている。

トランネキサム酸 用量上げ再審議

一般薬の医療用薬同等で

厚生労働省は15日の薬事審議会要指導・一般薬部会で、抗炎症剤であるトランネキサム酸の一般用医薬品について、用量を医療用医薬品と同量まで引き上げる方針を報告した。ただ、「引き上げ量が大幅に増加することを踏ま

トランネキサム酸は日本OTC医薬品協会薬制委員会が選定したもので、一般用の1日最大用量は750mg、1回最大用量は250mgとなっている。

医薬品医療機器総合機構(PMDA)が一般用の安全性に関する評価を行った結果、医療用と安全性プロ

ファイルについて大きな相違が確認されなかったこと、患者の腎機能が低下している場合は使用前に医師等に相談することを添付文書で注意喚起することで安全な使用につながると判断した。

総合評価として、「必要な措置を取ること増量による安全性の懸念は許容可能」との考えを示した。そのため、一般用についても15歳以上(1日3回用法の場合)で1日量を2000mg、1回量を666・7mg

後発品メーカーの再編に付随し、OTC医薬品メーカーの再編が加速している。

第一三共がサンタリに第一三共ヘルスケアを売却した。武田薬品が投資ファンドのプラットフォームグループにOTC事業を譲渡し、アリナミン製薬が誕生したのに続く動きだ。医療用医薬品大手がOTC事業を切り離す動きが鮮明となっている。医療用から一般用へのスイッチ化などOTCを取り巻く環境が変化している中、業界内では新陳代謝が進むこと自体は否定されるものではないが、安定供給の確保が今後の大きな課題となる。

後発品は製造不正問題を契機に品切れや出荷調整が続く、供給不安は今もなお解決していない。OTCの供給は、医療用新薬メーカーのガバナンスに支えられてきたものの指摘もある。OTC分野は最大手の大正製薬をはじめ日系企業がリードする業界だ。今月から医薬品医療機器等法施行で医薬品販売制度も見直された。再編によって担い手が変わる中でも品質と安定供給を確実に担う体制を構築できるかが問われている。



薬事日報社
東京本社 〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1-11
電話(03) 3862-2141
FAX(03) 5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
電話(06) 6203-4191
FAX(06) 6233-3681
購読料 半年19,764円
(税込) 1年36,234円

きょうの紙面
「CDMO協会」に変更 CMO協会 ……②
海外好調で増収増益 □一ト製薬 ……⑥
製薬企業各社の決算 ……⑦
再建から成長段階に 住友ファーマ ……⑧
本号8ページ

要指導・一般薬部会
厚生労働省は15日の薬事審議会要指導・一般薬部会で、抗炎症剤であるトランネキサム酸の一般用医薬品について、用量を医療用医薬品と同量まで引き上げる方針を報告した。ただ、「引き上げ量が大幅に増加することを踏ま



トランネキサム酸は日本OTC医薬品協会薬制委員会が選定したもので、一般用の1日最大用量は750mg、1回最大用量は250mgとなっている。

医薬品医療機器総合機構(PMDA)が一般用の安全性に関する評価を行った結果、医療用と安全性プロ

ファイルについて大きな相違が確認されなかったこと、患者の腎機能が低下している場合は使用前に医師等に相談することを添付文書で注意喚起することで安全な使用につながると判断した。

総合評価として、「必要な措置を取ること増量による安全性の懸念は許容可能」との考えを示した。そのため、一般用についても15歳以上(1日3回用法の場合)で1日量を2000mg、1回量を666・7mg

後発品メーカーの再編に付随し、OTC医薬品メーカーの再編が加速している。

第一三共がサンタリに第一三共ヘルスケアを売却した。武田薬品が投資ファンドのプラットフォームグループにOTC事業を譲渡し、アリナミン製薬が誕生したのに続く動きだ。医療用医薬品大手がOTC事業を切り離す動きが鮮明となっている。医療用から一般用へのスイッチ化などOTCを取り巻く環境が変化している中、業界内では新陳代謝が進むこと自体は否定されるものではないが、安定供給の確保が今後の大きな課題となる。

後発品は製造不正問題を契機に品切れや出荷調整が続く、供給不安は今もなお解決していない。OTCの供給は、医療用新薬メーカーのガバナンスに支えられてきたものの指摘もある。OTC分野は最大手の大正製薬をはじめ日系企業がリードする業界だ。今月から医薬品医療機器等法施行で医薬品販売制度も見直された。再編によって担い手が変わる中でも品質と安定供給を確実に担う体制を構築できるかが問われている。

後発品メーカーの再編に付随し、OTC医薬品メーカーの再編が加速している。

第一三共がサンタリに第一三共ヘルスケアを売却した。武田薬品が投資ファンドのプラットフォームグループにOTC事業を譲渡し、アリナミン製薬が誕生したのに続く動きだ。医療用医薬品大手がOTC事業を切り離す動きが鮮明となっている。医療用から一般用へのスイッチ化などOTCを取り巻く環境が変化している中、業界内では新陳代謝が進むこと自体は否定されるものではないが、安定供給の確保が今後の大きな課題となる。

後発品は製造不正問題を契機に品切れや出荷調整が続く、供給不安は今もなお解決していない。OTCの供給は、医療用新薬メーカーのガバナンスに支えられてきたものの指摘もある。OTC分野は最大手の大正製薬をはじめ日系企業がリードする業界だ。今月から医薬品医療機器等法施行で医薬品販売制度も見直された。再編によって担い手が変わる中でも品質と安定供給を確実に担う体制を構築できるかが問われている。

「MA活動の戦略は、こう描く」 - 現場で使える、メディカル戦略プラン立案の決定版

メディカル戦略プラン立案・実践ガイド
田中 弘之
Medical Affairs

「MAの成果はどう描くべきか？」その答えがこの一冊に。

ファクト/インサイト分析、ペイシェント・ジャーニーの描き方、活動の評価まで、曖昧だったプロセスを9つのステップで体系化。本書は、誰でも「勝てる戦略」が描けるようになるための実践ガイドです。

B5判 / 111頁 / 定価3,300円 (本体3,000円+税)

【電子書籍も発売中】

【目次】

- 第1章 メディカル戦略プランとは？
- 第2章 コマーシャル部門との役割の違い
- 第3章 ファクトとインサイトとは？
- 第4章 PJとは？ - 疾患別特性
- 【メディカル戦略プランの作成法】
- 第5章 全体像と分析
- 第6章 戦略設計
- 第7章 戦略設定の具体化
- 第8章 活動計画と最終化
- 第9章 MA活動の評価方法